2020年度 事業報告

社会福祉法人 札幌この実会

2020年度事業報告

社会福祉法人 札幌この実会

2020年は、新型コロナウイルス感染症により私たちの暮らしは一変し、様々な活動が制約を受け、社会全体に自粛ムードが広がりました。札幌この実会でも、行事等は中止や変更を余儀なくされ、外出の自粛や帰省の制限等、我慢を強いられる日常となりましたが、感染予防を徹底するとともに、日々の支援に工夫を凝らして利用者の皆さんの活動や暮らしを支えてきました。一方、幸い感染者は出ませんでしたが、利用者の皆さんや職員の中で、本人や身近な人が発熱によりPCR検査を受けることは度々あり、結果が出るまでは強い不安や緊張を感じながら行動を制限することになりました。5月から6月に予定していた理事会及び定時評議員会もやむなく開催を見送り（決議の省略等で対応）、12月に予定していた理事会及び評議員会は中止にしました。2020年度はまさに異例ずくめの年度となりました。

そうした中、懸案の西野6条3丁目の土地の売却については、不動産業者の仲介により好条件で5月に売却することができました。

2020年度清水基金助成事業の申込み（送迎車両の整備）については、2月に決定の通知を受け、2021年度に実施できることになりました。清水基金様に深く感謝申し上げます。

2019年度から理事会で審議を続けてきた懲戒処分に係る就業規則の改定は、途中案の取り下げもありましたが3月の理事会で決議しました。また、併せて当直の勤務時間の変更も決議し、労働基準監督署からもGH等の住居ごとに宿直の許可を得ました。

2020年度事業計画にある収支バランスの改善については、10月の理事会で論点整理と審議を行いましたが、収益（収入）の増加及び費用（支出）の削減に取り組むにあたっての時間を確保するため、3月の補正予算で人件費積立資産の積み増し案を決議しました。また、運営の安定化と併せて課題に上がった新たな将来展望については、その必要性を認識し今後検討を進めていくこととしました。

1. 理事会・評議員会について

2020年度に実施した理事会並びに評議員会の状況は次のとおりです。

※…決議（報告）があったものとみなされた日

開催年月日	機　関	決議事項
※ 2020年 5月27日	理事会 （決議の省略）	2019年度事業報告及び決算の承認
		清水基金助成事業の申込み　　定時評議員会の決議の省略等
※ 2020年 6月15日	定時評議員会 （報告・決議の省略）	2019年度事業報告
		2019年度決算の承認

2020年 10月2日	理事会	就業規則の改定（案の取下げ）　収支バランスの改善に向けて
		車両のリース期間満了に伴う入れ替え（2020年度）
2021年 3月19日	理事会	評議員選任候補者の推薦　評議員選任・解任委員の退任及び選任
		2020年度補正予算の同意
		2021年度事業計画及び収支予算の同意
		2021年度職員体制　就業規則の改定
		車両のリース期間満了に伴う入れ替え（2021年度）
		役員等に係る補償契約・役員等損害賠償責任保険契約
		契約の自動更新の承認　評議員会の招集
2021年 3月27日	評議員会	2020年度補正予算の承認　2021年度事業計画の承認
		2021年度収支予算の承認

2. 監事監査について

2020年度に実施した監事監査は次のとおりです。

第1回　2020年5月13日（小平監事）、5月14日（紺野監事）

第2回　2020年9月8日（紺野監事）　9月9日（小平監事）

第3回　2021年3月1日（小平監事）　3月12日（紺野監事）

3. 事業指定について

2020年度における事業指定の変更は次のとおりです。

（4月）

この実支援センター、サービス管理責任者を変更

（8月）

この実らいふネット、住居の増（「リリー」の開設）により、8住居を9住居に、定員46名を48名に変更（2住居定員変更、1増1減）

（10月）

この実らいふネット、2住居定員変更（1増1減、事業所定員変更無）

※10月1日付及び28日付で2度行う

4. 事業運営について

2020年度に実施した事業の運営状況は次のとおりです。

この実サポートステーション

■生活介護事業　この実サポートステーションすてっぷ
（定員）40 人　（年間利用者延べ人数）10,230 人　（平均利用者数）33.2 人
（平均区分）4.5
（体制）福祉専門職員配置等　重度障害者支援体制　食事提供体制　送迎体制

令和2年度は重点目標として、「活動における安全・安心の確保」「保護者からの信頼の維持」「職員行動規範に基づく適正な支援」の3つを掲げました。事業所の足元を見据えながら、上に掲げたような基本的な事項をより重視していく方針に転換しました。新路線となって1年目ということもあり、思うような成果を上げられなかったのが実情ですが、次年度以降もぶれることなく、腰を据えて取り組んでいきます。

① コロナウィルス禍での日中活動

感染予防のためにはたら～くの活動場所を、サポート2階と交流ホームの2カ所に分散しました。コロナの影響で夏の一時期に下請け作業が止まったことがありましたが、秋以降は徐々に復旧しました。活動場所を分けたことで、職員の配置が分散しており、レクリエーション活動の規模が縮小されることになりました。その分、活動時における利用者間のトラブル等は大きく減少しており、プラス、マイナス両面での影響が見られました。活動内容や活動環境の見直しということでは、コロナ禍により今まで見過ごされていたことに注意が向くようになったという面もありました。

② 余暇活動　行事

行事については事業計画作成の時点で、多くの行事の中止ないし規模や内容の変更が決定していました。そうしたなか代替イベントとして「秋の食事会」や「支笏湖へのドライブ」を企画して実施しており、利用者や保護者には好評を得ることができました。

③ 家族ケア

コロナ禍のなか、事業所としてお知らせ文書を頻繁に作成し、事業所として感染予防への協力の呼びかけや予防対策の紹介等の発信を積極的に行いました。感染の勢いが比較的収まっていた 6、7 月中には個別での保護者懇談会を実施しており、その中で各家庭の現状についての聴き取りをしました。年度末に今期初めての保護者会を実施することができており、1 年間の振り返りとこれからの事業所の方針について

の説明を行いました。

■短期入所事業　りらっく
（定員）6 人　（年間利用者延べ人数）813 人　（利用者実人数）24 人
（体制）栄養士配置　食事提供体制

感染予防の観点から、以前から利用がある方を除いては基本的に外部からの利用は受けていません。

通所利用者を対象として、前年度末に利用に関するアンケートを実施し、回答に基づいて年間の宿泊利用スケジュールを立てて、運営をしました。今後グループホームへの移行が現実的になりつつある利用者については、そうしたことを踏まえたうえで、短期入所の長期的な利用という形で、生活援助サービスを提供しました。

この実支援センター

2020年度のこの実支援センターは新型コロナウイルス感染予防に追われる年となり、活動状況も警戒ステージに合わせて感染予防を徹底した取り組み「3つの密」による感染リスクを低減させる活動となりました。旅行や交流まつりなど全体で行う行事も形を変え小グループに分かれて少しでも利用者さんが楽しんでいただける行事に切り替えて提供しております。

■生活介護事業　この実支援センター　おりーぶ
（定員）40 人　（年間利用者延べ人数）9,540 人　（平均利用者数）35.5 人
（平均区分）4.4
（体制）福祉専門職員配置等　常勤看護職員等配置　重度障害者支援体制
食事提供体制　送迎体制

新型コロナ感染対策として「手洗い・うがいの徹底」「活動中の室内換気」「活動後の室内の拭き上げ」「送迎車両の消毒」「飛沫防止のパーテーション設置」など感染予防に取り組みました。また、通所者は公共交通機関の利用を警戒ステージに合わせて切り替えて送迎を行いました。

椎茸作業については外作業ということもあり、例年と同じく作業に取り組むことが出来ました。入浴介助では入浴の質を高める取り組みとして個々の入浴アセスメントを強化して具体的な支援の必要性に取り組みました。

従たる事業所では室内の換気や消毒を行いながら下請け作業や創作活動に取り組

みました。また、作業の並びを一方向横並びやパーテーションで区切って飛沫防止を行いました。

■就労継続支援B型事業　この実支援センター　うぇるなっつ
（定員）15 人　（年間利用者延べ人数）3,061 人　（平均利用者数）11.4 人
（体制等）福祉専門職員配置等　送迎体制　施設外就労　施設外支援

新型コロナウイルス感染の防止と予防の取り組みとして、定期的な換気や消毒作業、相談室にパーテーションを設置、うがい手洗いの推奨を行いました。公共交通機関の利用の制限に伴って徒歩通所の方以外は全て公用車での送迎を行いました。そのため、施設外就労（日本仮設株式会社様）での作業時間が短縮となりました。また、事務所内の密を避けるために稼働日の土曜日利用を通所利用者と GH 利用者とでグループ分けを行いました。

外部の方との接触も最小限にし、見学者や実習生の受け入れも一時的に休止しました。

4月には施設外支援で取り組んでいた方が雇用に結び付き、懸命に頑張っている姿は一緒にうぇるなっつで過ごしていた方々の強い励みになりました。

新たな作業としてポスティング作業を開始し、外作業の追加は利用者にとっても良い気分転換や運動不足解消につながりました。

今年度は新型コロナウイルスの流行により、特に就労支援に関しては活動が制限される1年となってしまい作業に関して多人数での移動や活動は難しく、松井ビル内での活動の範囲を広げる必要を強く感じました。

コミュニティライフこの実

昨年度より世界的に流行している新型コロナウィルス感染症対策として、「手洗い・うがいの徹底」「外出の制限」「マスクの着用」等の新しい生活様式で感染予防に努め、新型コロナウィルス感染症を施設から出さないことを念頭に置き活動を組み立てました。

新型コロナウィルス感染症の為、4月.5月は緊急事態宣言が発令されたこともあり、ゴールデンウィークの長期帰省はもちろん普段の帰省も、完全に出来なくなるという今までにない状態であったが、職員はもとより、利用者1人1人が理解を示してくれたため、大きな事故や、混乱もなく乗り切る事ができました。

その中で、それぞれのホーム内で工夫して、利用者が落ち着いた生活が送れるよう支援を行いました。

■共同生活援助事業　この実らいふネット
（定員）46 人⇒48 人（8 月）　（共同生活住居）8 ヵ所⇒9 ヵ所（8 月）
（年間利用者延べ人数）16,457 人　（平均利用者数）45.1 人　（平均区分）4.0
（体制）介護サービス包括型　福祉専門職員配置等　夜間支援体制
重度障害者支援職員配置　医療連携体制

それぞれのグループホームに役割や特色を持たせるために、グループホーム「リリー」を8月１日に新設しました。このことで、就労している方をアパートもしくは、ふらっとの2階のアパート形式の居室で生活してもらい、就労している方、B型事業所に通われる方、生活介護に通われる方それぞれの生活に合わせたホームを用意できました。また、3名の方が新たに入居されたことに伴い、巡回型のホームを当直型に変更しました。12月にホーム担当の形を新しくして、よりホーム担当と利用者が深く関われるような体制を作りました。

■共同生活援助事業　この実みなぽっけ
（定員）19 人　（共同生活住居）2 ヵ所
（年間利用者延べ人数）約 6,745 人　（平均利用者数）18.5 人　（平均区分）4.9
（体制）日中サービス支援型　福祉専門職員配置等　看護職員配置体制
重度障害者支援職員配置
■短期入所事業　この実みなぽっけ
（定員）1 人　（年間利用者延べ人数）28 人　（利用者実人数）2 人
（体制）常勤看護職員等配置　栄養士配置　食事提供体制

日中を「みなぽっけ」で過ごす方については、週に1度は外出の機会を設けたり、清掃作業を、責任を持って行ってもらうなど楽しめる活動ややりがいのある活動を提供しました。

予定の変更が苦手な、重度の障がいを持った方が多いホームであるが、新型コロナウィルス感染症の為、帰省の出来ない事が続く中でも特にパニックなどにならずに過ごすことが出来ていました。

短期入所については、4月に支援センターの方、10月からグループホームを利用することになった方の利用が9月にありました。

相談室みすくうぇる

■特定相談支援事業　相談室みすくうぇる
障害福祉サービス等の利用計画の作成（計画相談支援）86 件
■一般相談支援事業　相談室みすくうぇる
地域生活への移行に向けた支援（地域移行支援・地域定着支援）0 件

2019年4月、社会福祉法人札幌この実会「相談室みすくうぇる」を開設し、2年が経とうとしています。

現在、契約件数は26名でサービス利用計画の作成や定期的（3ヶ月・6ヶ月）なモニタリングを主に行っています。今年度は、新規で8名（新規4名、セルフプランから移行2名、他の相談室からの移行2名）と契約になりました。

一般の相談ではうぇるなっつ（就労継続支援B型）が清掃作業で行っている、道営住宅を利用されている方からヘルパーを探しているという相談がきて、訪問介護センターを紹介し契約に至っています。

サポートステーションやこの実支援センターの利用者や保護者のケースにも関わらせて頂き、関係機関と連携を取り、グループホームやNPO法人の就労継続支援B型事業所に繋げています。

他法人との連携では、7月下旬に藻岩この実会のほっと相談センターと一緒に勉強会をおこない、10月に5日間ではありますが、職員を実習に行かせています。

コロナ禍の状況ではありますが、対策をしっかり取りながら2020年6月頃に他の事業所（就労継続支援B型やグループホーム等）の見学も行いました。

2021年3月に藻岩この実会「ほっと相談センター」より依頼を受け、第2この実寮の利用者の計画相談を40名行う事となり、現在進めています。

5．地域における公益的な取り組みについて

2020年度はコロナ禍で取り組みは限定的となりました。朝市及び乗馬は休止とし、外作業班による地域貢献活動、福祉除雪、清掃活動、介護保険対象外の生活支援、及び福祉総合相談については、活動範囲・支援対象を狭めて行いました。また、退所者に対する継続的支援は、当該利用者が8月よりGHを利用することになったため7月で終了しました。

2020年度　決算の概要

社会福祉法人　札幌この実会

2020年度の事業活動計算では、法人合計（サービス活動＋サービス活動外）で収益が約4億5700万円（※1）の一方、費用が約4億6700万円（※2）となり、**経常増減差額はマイナス約1000万円**となりました。

（※1）…サービス活動収益・約4億4900万円＋サービス活動外収益・約800万円

（※2）…サービス活動費用・約4億6300万円＋サービス活動外費用・約400万円

次に当該差額に特別増減差額（約400万円）を加算した**当期活動増減差額はマイナス約500万円**となり、更に国庫補助金等特別積立金のマイナス約1200万円と合わせて、**純資産は前年度からマイナス約1700万円の約9億9200万円**となりました。

前年度に比べ、収益がプラス約3200万円（※3）の一方、費用はプラス約2300万円（※4）となり、**経常増減差額は前年度のマイナス約1800万円から約900万円赤字幅が縮小**しました。

（※3）…収益増の主な要因

【障害福祉サービス等事業収益】…プラス約3000万円

（グループホーム：プラス約2900万円、相談支援事業：プラス約100万円）

【その他のサービス活動外収益】…プラス約300万円

（新型コロナウイルス感染症対策　約300万円）

（※4）…費用増の主な要因

【人件費】…プラス約2500万円　　【事務費】業務委託費…プラス約800万円

（一方、次の費用の合計でマイナス約900万円
【事業費】、【事務費】業務委託費以外、【就労支援事業費用】、【作業指導付帯費用】、
【減価償却費】、【国庫補助金等特別積立金取崩額】）

資金収支計算では、補正予算に比べ、事業活動資金収支差額がマイナス約20万円、施設整備等資金収支差額がプラス約150万円（※5）、その他の活動資金収支差額がプラス約200万円（※6）で、**当期末支払資金残高**はプラス約330万円の**約1億5600万円（対前年度プラス約400万円）**となりました。

積立資産（退職給付引当資産を除く）は予算に基づく積み立て及び取り崩しを行い、**約1億9800万円（対前年度プラス約1500万円）**となりました。

（※5）…施設整備等資金収支差額増の主な要因

GH財産処分（SP）に伴う補助金返還：約100万円…2020年度に納付通知なし

（※6）…その他の活動資金収支差額増の主な要因

北海道民間社会福祉事業職員共済会退職金処理：退職給付引当資産取崩収入約200万円

また、2020年度の算定において、社会福祉充実残額（再投下可能な財産）は生じなかったことから、社会福祉充実計画の策定は不要となりました。

≪2020年度の算定≫

①「活用可能な財産」…314,392,371 円

②「社会福祉法に基づく事業に活用している不動産等」…0 円

※計算の特例適用

③年間事業活動支出…448,487,514 円

社会福祉充実残額＝①－（②＋③）≒▲134,090,000 円

2020年度決算資料(概要)

社会福祉法人 札幌この実会

■事業活動計算書

※本年度・前年度決算…100万円未満四捨五入　増減…10万円未満四捨五入

	本年度決算	前年度決算	増減
サービス活動増減の部			
収　益	4億49百万円	4億20百万円	2890万円
費　用	4億63百万円	4億39百万円	2340万円
増減差額	▲14百万円	▲19百万円	550万円
サービス活動外増減の部			
収　益	8百万円	5百万円	310万円
費　用	4百万円	5百万円	▲30万円
増減差額	4百万円	1百万円	330万円
経常増減差額	▲10百万円	▲18百万円	880万円
特別増減の部			
収　益	4百万円	0百万円	450万円
費　用	0百万円	5百万円	▲470万円
増減差額	4百万円	▲5百万円	920万円
当期活動増減差額	▲5百万円	▲23百万円	1800万円

■貸借対照表

※100万円未満四捨五入

【流動資産】	1億69百万円	【流動負債】	14百万円
【固定資産】	8億75百万円	【固定負債】	39百万円
≪資産合計≫	10億44百万円	【純資産】	9億92百万円
		対前年度	▲17百万円

■資金収支計算書

※予算・決算…100万円未満四捨五入　差異…10万円未満四捨五入

	予算	決算	差異
事業活動による収支			
収　入	4億57百万円	4億57百万円	▲40万円
支　出	4億48百万円	4億48百万円	▲60万円
収支差額	9百万円	9百万円	20万円
施設整備等による収支			
収　入	18百万円	18百万円	0万円
支　出	6百万円	5百万円	150万円
収支差額	11百万円	13百万円	▲150万円
その他の活動による収支			
収　入	104百万円	107百万円	▲290万円
支　出	124百万円	125百万円	▲80万円
収支差額	▲20百万円	▲18百万円	▲200万円
当期資金収支差額合計	1百万円	4百万円	▲330万円

支払資金	1億56百万円	対前年度　4百万円
積立資産	1億98百万円	対前年度　15百万円

実績の推移

年間利用者延べ人数		実 績					見 込
		２０１６年度	２０１７年度	２０１８年度	２０１９年度	**２０２０年度**	２０２１年度
サポートステーション	生活介護	11,294	10,829	10,366	10,123	10,230	10,400
	短期入所	1,164	1,181	1,041	1,015	813	800
この実支援センター	生活介護			9,922	10,055	9,540	9,600
	就労継続B型	13,084	13,350	2,742	3,179	3,061	3,100
この実らいふネット	GH	23,135	23,035	22,955	20,181	16,457	17,000
この実みなぽっけ	GH				2,169	6,745	6,700
	短期入所				54	28	20
合計		**48,677**	**48,395**	**47,026**	**46,776**	**46,874**	**47,620**

事業活動計算	決 算					当初予算／加工
	２０１６年度	２０１７年度	２０１８年度	２０１９年度	**２０２０年度**	２０２１年度
サービス活動収益		396,237,789	405,738,362	420,223,722	449,098,618	446,680,000
サービス活動外収益		8,371,662	5,699,839	5,198,446	8,254,685	5,229,439
収益合計（除･特別）		**404,609,451**	**411,438,201**	**425,422,168**	**457,353,303**	**451,909,439**
サービス活動費用		421,755,765	412,504,467	439,336,361	462,741,494	452,749,104
サービス活動外費用		5,571,688	4,933,243	4,577,128	4,306,620	4,251,439
費用合計（除･特別）		**427,327,453**	**417,437,710**	**443,913,489**	**467,048,114**	**457,000,543**
経常増減差額		**-22,718,002**	**-5,999,509**	**-18,491,321**	**-9,694,811**	**-5,091,104**
特別増減差額		-12,421,619	-201,839	-4,722,198	4,444,801	0
当期活動増減差額		**-35,139,621**	**-6,201,348**	**-23,213,519**	**-5,250,010**	**-5,091,104**

人件費	273,908,074	294,446,043	283,374,401	297,837,719	322,584,436	310,719,000
業務委託費				4,004,000	12,012,000	12,012,000
人件費合計	**273,908,074**	**294,446,043**	**283,374,401**	**301,841,719**	**334,596,436**	**322,731,000**

積立資産（年度末残高）	**342,659,150**	**196,405,150**	**197,728,000**	**182,944,000**	**197,708,000**	**199,999,000**
人件費積立資産	59,700,000	40,700,000	38,700,000	29,500,000	87,300,000	79,200,000
修繕積立資産	14,400,000	14,800,000	10,800,000	9,300,000	12,300,000	14,300,000
備品等購入積立資産	6,800,000	7,800,000	7,700,000	8,400,000	10,400,000	11,800,000
減価償却積立資産	194,026,000	113,372,000	122,628,000	122,244,000	55,308,000	63,749,000
建設積立資産	65,100,000	17,100,000	15,400,000	10,800,000	29,700,000	28,250,000
工賃変動積立資産			200,000	400,000	400,000	400,000
設備等整備積立資産			300,000	300,000	300,000	300,000
その他の積立資産	2,633,150	2,633,150	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000

人件費積立資産	**59,700,000**	**40,700,000**	**38,700,000**	**29,500,000**	**87,300,000**	**79,200,000**
対前年度増減		-19,000,000	-2,000,000	-9,200,000	57,800,000	-8,100,000